

高度に体系化された針灸の治療法則。

# 中医針灸学の治方と処方

弁証と論治をつなぐ

邱茂良・孔昭暹・邱仙靈／編著 浅川要・加藤恒夫／訳  
A5判 並製 464頁 定価4,830円(本体4,600円)送料315円

・より明確になった針灸治療の法則性

・理論と臨床のみごとな結合

・湯液と同じ中医学理論を針灸治療に応用

著者の一人、邱茂良先生は1950年代に針灸分野における弁証論治を提唱し、今日の中医針灸学の礎を築いた老中医である。現在も南京中医药大学教授のほか数々の要職に就かれ、中国針灸界の第一人者として活躍されている。

本書では、針灸の治療法則を体系的に解説している。中医針灸学の骨幹をなす「理・法・方・穴・術」の「法」と「方」に重点を置き、理論と臨床をみごとに結合させた。これによって、針灸分野においても湯液分野と同じく中医学理論を用いた治療が可能になったことは画期的である。ある症状に対して明確な西洋医学的診断を下したうえで、中医学の弁証論治の方法を用いてその症状に対する診断を行い、証に則った治則と治法・処方配穴・手技を提起して確実な治療効果をねらう。それぞれの証に合った治療方法を導き出せる構成になっており、実用性も高い。

「訳者あとがきより」 浅川要・加藤恒夫  
本書は、最もその任に相応しい人達が、中医針灸学の「法・方」の領域を中医学の全的視野から総括してまとめあげたものであり、陸続と出版される現代中国の針灸書の中にあつて、歴史的評価が与えられる書といつてよいであろう。

本書の翻訳に携わった浅川要と加藤恒夫はどちらも開業鍼灸師である。日々の治療のなかで実際の針灸臨床にみあった証の立て方とその治法、処方を模索してきたがこれまで手にしてきた中医学の症状鑑別診断学書はいずれも湯液のそれであり、中医学を学んで証を立てても、それに見合う適切な針灸の治法と処方を探し出すことが困難であった。その点、本書は針灸の視点から各種の弁証論治が語られており、正確な証が四診で確定できれば、その証に基づいた針灸の治法と処方を導き出すことができるので、入手後、常に臨床で用いることにも、その優れた内容を東洋学術出版社に推奨して、本書の翻訳出版を強く求めた。これまで中医学を学んできた日本の鍼灸師にとって、さらにそれを臨床に生かすうえで、本書は必携の書である。

## 中医針灸学の治法と処方

弁証と論治をつなぐ

邱茂良・孔昭暹・邱仙靈／編著  
浅川要・加藤恒夫／訳



高度に体系化された針灸の治療法則

理論と臨床をみごとに結合  
湯液と同じ中医学理論を針灸治療に応用

東洋学術出版社

定価：本体 4,600 円＋税

東洋学術出版社

〒272-0822 千葉県市川市宮久保3-1-5  
電話 047-371-8337  
FAXフリーダイヤル 0120-727-060



# 高度に体系化された針灸の治療法則。

各編

## 第5章 臓腑病の治法と処方

### 第1節

#### 心病の治法

心は血脈を主り、また神明を主るので、心病は血脈と神志異常の両面以外には無く、弁証では虚証と実証の二大類型に分けられる。心臓の虚証は内傷によることが多く、臨床では、気虚、血虚、陰虚、陽虚の4種類に分けられる。

心気虚では、気が血を行らせることができず血の運行が滞滞する。治法は益気養心で、本臓の「背俞」穴と手厥陰心包経及び任脈の経穴が中心となる。針は補法を用い、同時に艾灸を加える。

心血虚では、心が養われず神を蔵することができなくなる。治法は補血養心で、関係する「背俞」穴と手厥陰心包経及び足陽明胃経の経穴が中心となる。針は補法を用い、同時に艾灸を加える。

心陰虚では、心が濡養されず心火が偏亢する。治法は養陰補心で、手少陰心経、手厥陰心包経、足太陰脾経、足少陰腎経が中心となり、陰津を滋補し心火を軽く瀉す。灸法は用いない。

心陽虚では、気血の温運ができなくなり、血は寒によって凝滞し、水湿が化さなくなる。治法は温陽補心で、心腎両臓の「背俞」穴と任脈、手厥陰心包経の経穴が中心となる。針は温補手法を用い、同時に多灸を加える。心陽が暴脱すると宗気が大きく泄して真陽が絶し神を主る所が失われるようになるので、急いで回陽救逆をはからなければならない。治療は督脈、任脈、手厥陰心包経の経穴が中心となる。針は温補手法を用い、強刺激で長く留針し、

218

第5章 臓腑病の治法と処方

同時に多灸重灸〔多灸は艾灸量の多い灸、重灸は多灸〕を行う。

心病の実証は痰、飲、火、瘀血などの原因によって起こることが多い。痰や飲による場合の治法は豁痰化飲であり、足陽明胃経、足太陰脾経、手少陰心経の経穴が中心となり、針は瀉法を用いる。火熱による場合の治法は清心降火であり、手少陰心経、手厥陰心包経の経穴が中心となり、針は瀉法を用いる。火が激しい時は十二井穴を取り、三棱針で点刺して出血させ、諸経の火熱を瀉す。瘀阻による場合は多く心陽不振で鼓動に力が無くなり、気が脈中で滞って、心脈が痺阻することになるので、治法は宣痺通陽で、本臓の「背俞」穴と任脈および手厥陰心包経の経穴が中心となる。針は補虚瀉実と標本兼治を施し、同時に艾条による温灸を加える。

### 1 益気養心法

配穴処方：心俞 内関 膻中 気海 足三里

主治証候：心悸怔忡〔強い心悸亢進〕。胸悶と気短〔呼吸に力がなく、浅く速い、息切れ〕があり、動くとき症状が強まる。常に神疲乏力や自汗〔暑くなくても出る汗〕、畏風〔悪風と同義で風に当たると寒く感じるので風を嫌うこと〕を伴う、あるいは驚悸不安〔驚愕による動悸〕や恍惚とした精神状態を起こす。顔面は皓白〔浮腫んだような白さ〕。

舌・脈象：淡胖舌、薄白苔、細弱脈か結代脈

随症加減：驚悸不安——神門を追加。

針灸手法：以上の諸穴にいずれも補法を用い灸を加える。刺激は比較的強くし、30分間留針する。

適応範囲：本法は心気不足の証に適用する。心筋炎、冠性心疾患、リウマチ性心疾患、心臓神経症、肺性心、神経衰弱などで心気虚の症状をもっている場合は本法の治療を参考にすることができる。

配穴処方の意義：心気不足では行血に力が無くなり鼓動に努めるようになるので、脈気が連続しにくく、心悸や気短、結代脈などが主症状となる。動くとき気が消耗するので、症状が強まるのである。神が気

219

### 総論

#### 第1章 針灸治法と針灸処方概論

- 第1節 針灸治法と針灸処方の起源
- 第2節 針灸処方の組み合わせ
- 第3節 選穴法と配穴法

#### 第2章 針灸治則

- 第1節 治病求本
- 第2節 陰陽調節
- 第3節 扶正去邪
- 第4節 標本緩急
- 第5節 三因制宜
- 第6節 弁証論治

#### 第3章 針灸治法

- 第1節 解表法
- 第2節 和解法
- 第3節 清熱法
- 第4節 去寒法
- 第5節 補虚法
- 第6節 理氣法
- 第7節 理血法
- 第8節 治風法
- 第9節 去湿法
- 第10節 開竅法
- 第11節 安神法
- 第12節 止痛法
- 第13節 通便法
- 第14節 消積法
- 第15節 固澀法
- 第16節 去痰法
- 第17節 保健法
- 第18節 減肥(瘦身)法
- 第19節 美容法
- 第20節 禁煙法・麻薬〔薬物〕中毒矯正法

### 各論

#### 第1章 六淫病の治法と

### 処方

- 第1節 風病の治法
- 第2節 寒病の治法
- 第3節 暑病の治法
- 第4節 湿病の治法
- 第5節 燥病の治法
- 第6節 火病の治法
- 第6節 [附]瘧病の治法

#### 第2章 痰飲病の治法と処方

- 第1節 痰病の治法
- 第2節 飲病の治法

#### 第3章 気血病の治法と処方

- 第1節 気病の治法
- 第2節 血病の治法

#### 第4章 精髓神志病の治法と処方

- 第1節 精病の治法
- 第2節 神病の治法

#### 第5章 臓腑病の治法と処方

- 第1節 心病の治法
- 第2節 肝病の治法
- 第3節 脾病の治法
- 第4節 肺病の治法
- 第5節 腎病の治法
- 第6節 胆病の治法
- 第7節 胃病の治法
- 第8節 小腸病の治法
- 第9節 大腸病の治法
- 第10節 膀胱病の治法

#### 第6章 胞宮衝任病の治法と処方

#### 第7章 胎産病の治法と処方

## 「針灸学シリーズ」3部作

天津中医学院・学校法人後藤学園／編 兵頭明／監訳 学校法人後藤学園中医薬研究室／訳

- ① 針灸学 [基礎篇] 定価6,300円 B5判 上製 400頁
- ② 針灸学 [臨床篇] 定価7,875円 B5判 上製 548頁
- ③ 針灸学 [経穴篇] 定価6,720円 B5判 上製 508頁



針灸学 [基礎篇]



針灸学 [臨床篇]



針灸学 [経穴篇]